

第3回 看護基礎教育のあり方に関する懇談会

議 事 次 第

平成20年3月24日（月）

15:00～17:00

はあといん乃木坂 312号-健保会館-

議 事

ヒヤリング

延吉 正清 社会保険小倉記念病院長

松月 みどり 財団法人田附興風会医学研究所北野病院看護部長

福井 トシ子 杏林大学医学部附属病院看護部長

資料

ヒヤリング資料

ヒヤリング資料

資料1

社会保険小倉記念病院長

延吉正清先生

第3回看護基礎教育のあり方に関する懇談会

社会保険小倉記念病院 延吉正清

看護師に求めるもの（2025年）

看護師は入院及び外来患者さんに対して、看護に関する医学上、技術的にはその領域でもっとも優れた看護を行い、それと同時に日々技術を磨き、学問的にも看護を少しでも高いレベルにおこなうように追求することが求められます。また第一に患者さんの精神的な面での看護を行なうよう心がける、これには看護師の人間性の向上が必要なこととなると考えています。

急性期病院での現状と課題

当院は超急性期病院で、北九州の心臓病の救急治療をほぼ担っています。このため当院(病床数 658 床)では CCU20 床、ICU13 床、semiCCU6 床、SCU13 床とその他救急病床 18 床を有していますが、看護師は特に救急患者さんが入院するための Care で振り回されており、患者の回転が速いため、治療のための看護が十分に出来ていないのが現状です。

今後の課題は、急性期の患者さんにかによりよい看護をするかということです。よりよい看護をおこなうために、臨床工学士や薬剤師を常駐させるという横の連携と同時に、主任を多くすることで、各チームに分けて看護出来るかという方向にいくのではないかと考えています。

看護師の役割と専門性

看護師の役割は当然看護ではありますが、ただ技術的なものではなく mental なものを含めて全体的 Care をしなければなりません。この他に医学の高度化により専門性が求められています。特に当院では認定看護師をとるよう奨励しており、現在では皮膚・排泄ケア、糖尿病看護、集中ケア、感染管理、乳がんの認定看護師がいます。また病院として認定看護師がとれるように機会を与えています。今後は、一般病院にも専門看護師の需要は増えるものと思います。

また、病棟科長によるマネジメントは極めて大切であり、科長が看護部長のノウハウを習得するように看護部長よりアドバイスを行っています。各病棟に小さな看護部長がいるような体制により、病院の運営ひいては経営についての知識を取得し、各病棟がひとつの病院のように経営に参加することにより病院の経営が非常によくなると思っています。

医療全体を見渡す“目”が重要

最近医療費の削減により、各病院も経営上大変困難な時代に入っています。病院幹部だけが経営する時代は終わり、職員一人一人が経営をしなければならないと思っています。医師はもちろんのこと、看護師も一人一人が経営者になり無駄を省き、より高度な医療を目指すと同時に、病床の回転やその他少しでも効率のよい看護をすることにより、経営性を高める意識を持つことが大切です。そのためには、病院の経営状況の公開や自分の病棟の回転率などを十分に考えながら看護することも要求されています。また当院では看護部長が副院長として活躍していますが、将来的には看護師から院長が出る時代があるかもしれません。病院の経営や管理ができるような知識や人間性を持った看護師の育成をする必要があると思います。

さて、私は臨床の最前線と院長という管理職をしており、このような立場から看護師を含む職員がどのようにならなければならないのか考えてみました。

まず、昨年病院の理念を変えました。それまでは“患者中心の高度医療の推進でありましたが、これは病院の職員であれば患者が大切であり高度医療を行なうことは誰でも考えています。それで昨年6月、患者さんを大切にするにはどうしても職員が幸福でなければならないということで、3つの幸せ、即ち“患者の幸せ・職員の幸せ・地域の幸せ”を病院の理念にしました。院長に就任した5年前より、職員を少しでも病院の進む方向及び病院の理念を知ってもらうために一泊研修をはじめました。まず新人研修、部課長研修をはじめ、階層別研修を今までに28回行ないました。研修を行なうことで職員が病院の現況と方向性を理解してもらえるようになったと思っています。

病院の職員1004人のうち、半数以上の550人が看護師です。(H20年から620名に増員)看護部長の協力なくして病院自体がよくはならないと思い、2年前より看護部長に副院長となってもらいました。

入退院の管理及び病棟の管理をすべて看護部長に一任しました。以前、混合病棟では医師が自分の科の病床を他科に借りなければならないようなことがありましたが、現在では看護部長が調整し病棟の回転が非常によくなり、また看護部長と医師との対話もスムーズになりました。

院内で職場間の壁をつくること（多くありますので）には反対で、少しでも横の連携をとるように努力をしてきました。または人事はできるだけ話し合いで決めるように話してきました。

一般に看護部は封建的な印象でしたが、このような考えを看護部長に伝え、できるだけ民主的に看護部を運営してもらい、下の人の声を聞いて少しでも働きやすい職場にさせていただくように努力しています。ただ、一朝一夕には行き

ません。院長就任後すぐに給与改革を行ない、今までの年功序列的な体制から努力している人がすこしでも評価されるように役割等級制の賃金体制にしました。すなわち、重要な役割を持っている人には高いお金を支払う制度です。また、2年前より収入・支出・利益などの収支報告などすべての情報を公開し、自分の給与はどのように上がっていき、今どこにあるのかも分かるようにしました。このことにより職員のモチベーションがかなり上がりました。しかし、これでは不十分であるとおもい、昨年4月より月1回院長と語る会をつくりました。これは職員食堂で60~80人（1級から6級までの人）が集まり、食事をしながら、ビールを飲みながら現在の病院の問題点を話し、グループに分かれて提示した問題点について話をしていただき、私と討議します。この会では色々な問題点を若い看護師さんも提示してくれるようになりました。問題点を①すぐに解決できること、②今はできないが時間をいただければできること、③将来的にも困難なこと、に分類してその場で答えを出せるものは出し、持ち帰って少し時間をかけてからお答えすることなど院内の活性化に取り組んでいます。

これは若い看護師さんが院長と対等に話ができることで、必ず将来病院が活性化するツールではないかと思っています。

看護師の教育は非常に重要で、看護部内でできることと病院が協力しなければいけないものがあります。病院としては研修、研究費に年間1億円を計上しています。以前は学会や研究会も制限により参加出来なかったものを、3年前より学会発表等、行けるような制度を導入しました。それにより学術研究や新しい技術が次々に導入されています。看護師育成には今後とも研究・研修には力を入れていく必要があります。

まだまだ色々取り組まなければならないことが多いですが、私は病院内が明るくて活気があふれるものにしたいと思います。職員がすこしでも幸せになれるようにどうすればよいか更に考えているところです。

最後に2025年には医療機械は非常に進歩し、また治療学も進歩し、現在では治療不可能である病気も治療できるようになると思われます。特に機械類の進歩は著しく、看護師がこれをすべて使いこなすことは不可能だと思われます。これに対して臨床工学士やその他のコメディカルの協力により、チーム医療で困難な部分をカバーし、看護師は看護師として行わなければならない看護をすることが要求されます。ただ、機械は進歩（医療の進歩）しても患者さん（人間）は必ずしも進歩はしないもので、看護師としての資質を上げ、十分人間性を高めて心のケアをすることが非常に大切になってくると思われます。

資料2

財団法人田附興風会医学研究所北野病院看護部長

松 月 み ど り 先 生

未来の看護職員に求められる資質と 基礎教育 —臨床現場の立場から—

(財)田附興風会 医学研究所
北野病院

松月 みどり

未来の医療を取りまく状況と観点

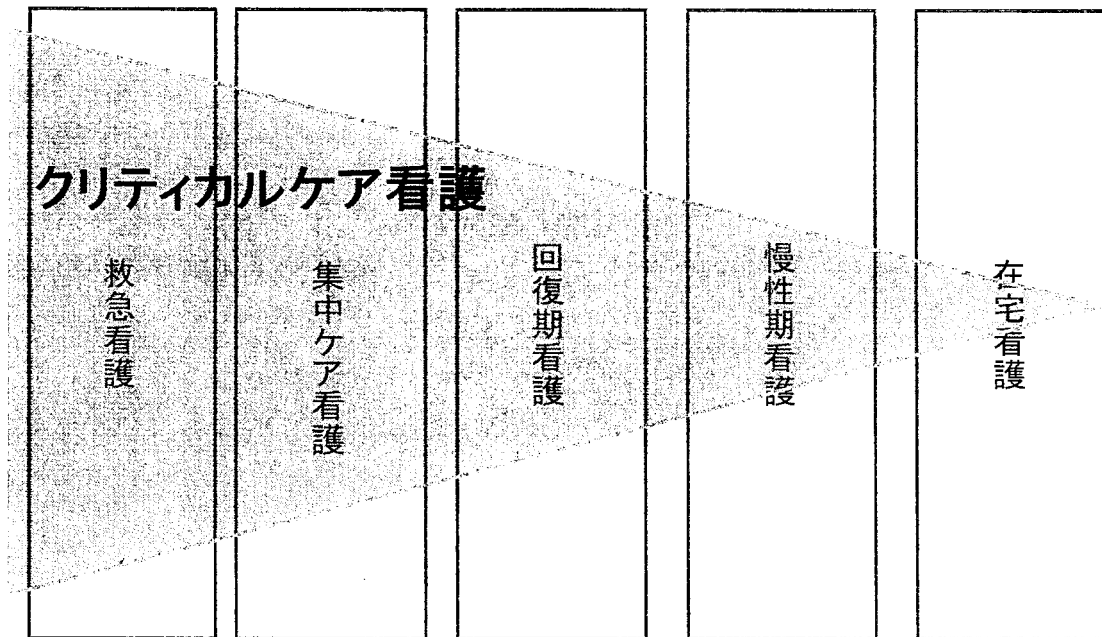
未来の日本

- ◆ 超高齢化社会と医療経済
- ◆ 国内に散在する国民に医療提供の保障
- ◆ 学校教育の課題:考える力の低下

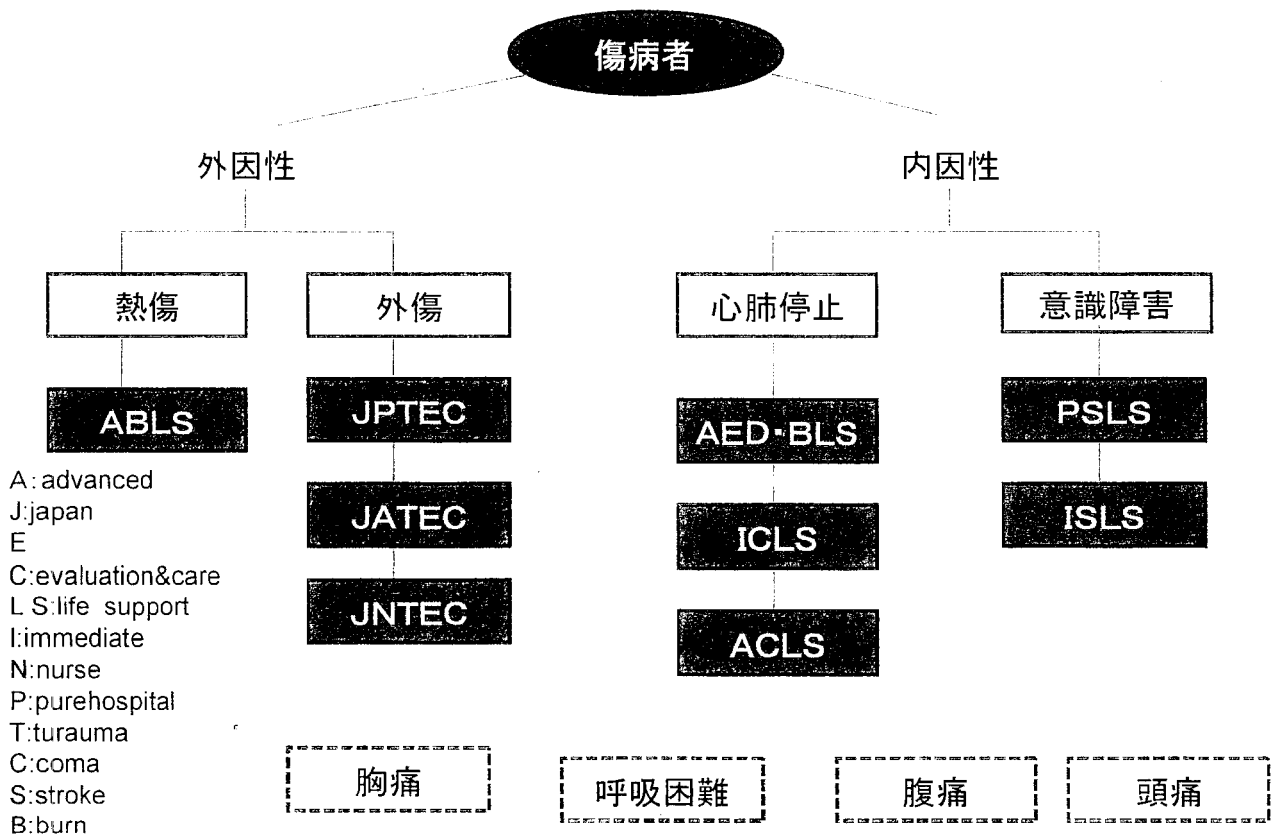
私の観点

- ◆ 診療補助業務の拡大
- ◆ 実現の過程にはITネットワークの活用

クリティカルケア看護



救急医療の初期対応・教育の標準化



救急救命士の役割を支えるもの

- ◆ 気管挿管・薬物投与・血管確保・除細動
- ◆ メディカルコントロール体制
- ◆ 繰り返す実地教育トレーニング
- ◆ 明確な管理体制

臨床看護に必要な患者評価・判断に必要な能力

- 患者を正確に「観察」しケアするための
構成要素

知識

判断に要する時間

判断する思考の枠組み(個人特有システム)

経験

コミュニケーションスキル

技術

トリアージ

- 語源：戦争で翌日戦力になる兵士の選別
- 救急・災害場面で限られた医療資源で最大の命を救うため傷病者の選別（トリアージタック）
- 救急外来の トリアージナース

看護基礎教育の不足

判断する思考の枠組み（個人特有システム）

科学的思考の基盤・統合と実践（21年度教育課程）

◆判断に要する時間

◆個別性のある学生の思考の枠組み

知識と技術

◆分子生物学の最新の知識教育

◆看護職員に特化された注射技術を安全に
確実に1回で実施できる

科学的思考と知識の統合から実践 解決法

- 創造的で自由な発想
- 自己の判断をEBM・EBNで正確に言語化能力
- 討論で鍛える
- 個性に合わせた、型にはめ込まない教育
- 堀川モデル(資料)
- EBM世界大会

- 優れた学生のモデル教育機関とモデル臨床
看護機関の連携モデル事業で実施評価

HoriKawa

SSH

Reports

平成15年度

京都市立堀川高等学校 スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書
(第2年次) 要約版

探究基礎

課題設定能力を育む実験・演習カリキュラムの研究開発/大学院生・研究生による実験・演習補助/統計(誤差・検定)教授教材の研究開発/具体的な目標設定

日常的に科学に接する場

自然科学部

微気圧計の作成/クイズラリー企画
プラネタリウムの展示発表/飛騨合宿/科学の祭典「星をつかむ」

「探究する力」測定法の開発

はじめに

SSH研究開発事業の目的

「探究基礎」から「科学の担い手」を育成するため
継続的・発展的な大学・研究機関との連携のあり方と
将来を展望した理数系教育の環境と指導法に関する研究開発



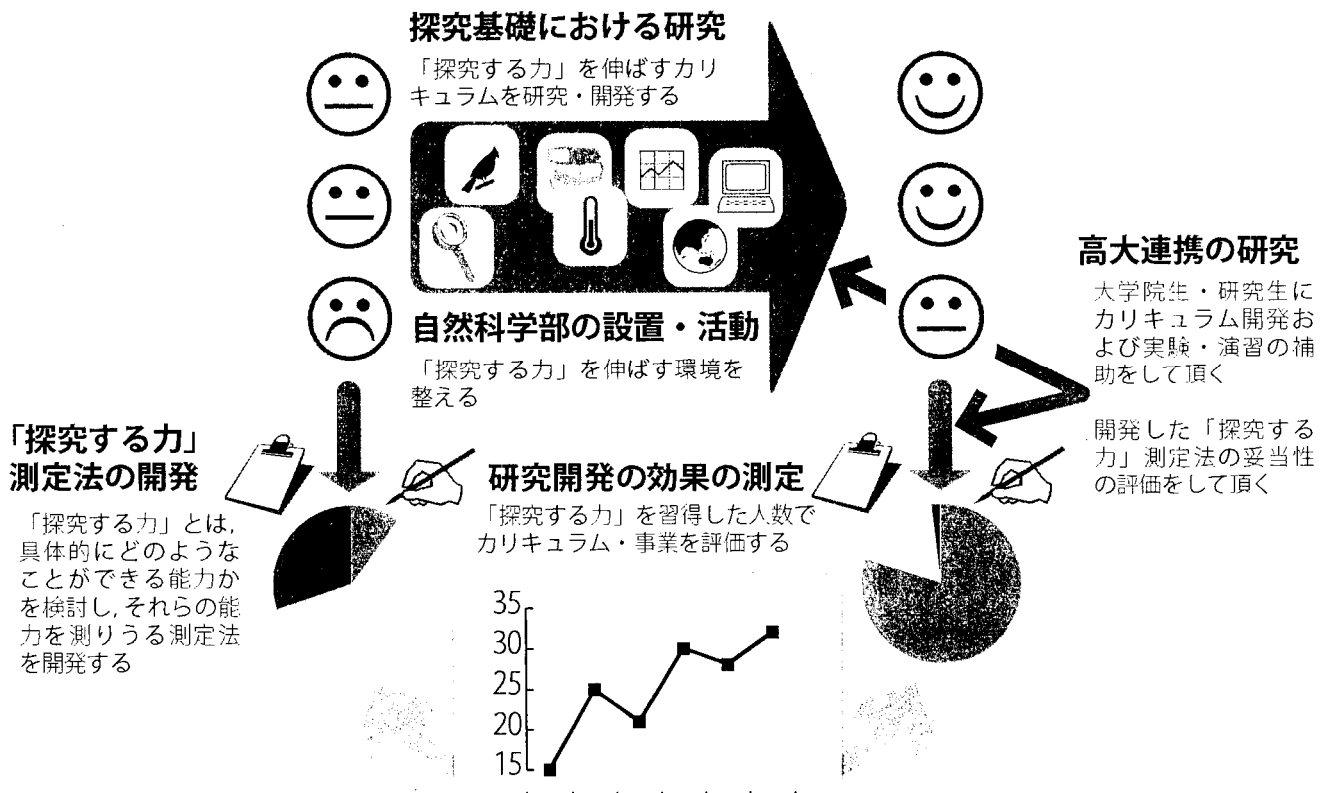
伊吹山頂上にて大接近中の火星と記念撮影。
生徒が自然への理解を深めることを目的としたフィールド
ワーク「伊吹山夜間登山」(2003. 8. 22-23)における
天体観望。この他にも高山植物の観察・地質の解説が行
われた。「何故、塩酸でとけない石と、とける石はあるの
か(参加生徒・事後アンケート・不思議に思ったこと)」

堀川高校では、京都市立高等学校改革のパイロット校としての位置付けのもと、わが国の科学・文化の新たな担い手の育成を目指す新しいタイプの専門学科「人間探究科」「自然探究科」を新設しました(平成11年)。

理数系統の学習を深め、自然の現象や原理・法則等の探究能力と態度を養う専門学科である「自然探究科」では、従来の普通科理系における学習内容を数学・理科を中心に高度化・深化させ、多彩な学習内容と学習形態及び学習方法を設定してきました。

そこで、本校では、専門科目「探究基礎」をベースとして、生徒一人一人の進路目標や将来展望をふまえた探究活動のあり方について研究し、より一層充実した理数系教育の環境と指導法について追求するため、スーパーサイエンスハイスクール研究開発課題を上記の通り設定しました。

研究開発内容の概要



自然科学部の活動

活動記録

自然科学に対する興味関心を深め、実際に活動する場とすることにより、学校全体に科学的精神を根付かせていくことを目標として平成14年に設置されました。活動内容は以下の通りです。

8月 5-8日 高大連携プロジェクト
京都大学 人間・環境研究科にて微気圧計の作成

9月 7-8日 文化祭
クイズラリー企画・プラネタリウムの展示発表

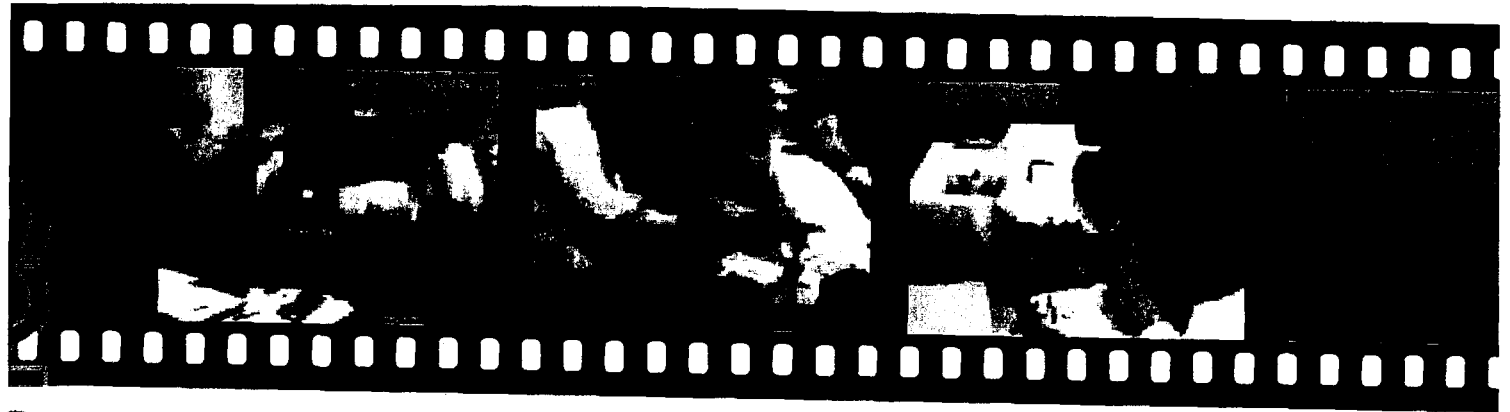
10月18-20日 飛騨合宿
根尾谷断層記念館 見学
京都大学飛騨天文台 見学・講義
福地化石調査
スーパーカミオカンデ 見学

11月 6-7日 科学の祭典・京都大会に参加
「星をつかむ」
銀河系とアンドロメダ銀河の模型作成
都市部で便利な星座早見盤 製作

2月13日 宇治田原化石調査

2月22日 京都高校生・教員理科研究発表会





Physics

物理分野では、6人のグループで、3つのテーマの実験・実習を行いました。

「力学実験」：「重い球と軽い球、どちらが早く落下するか？」という問いに対し、考察・実験を重ねながら答えを導いていく仮説実験型のカリキュラム。風洞実験装置を用いて、空気抵抗の定量が可能になったため、抵抗力が風速や物体の形状にどのように依存するか、定量的に議論する。

「熱・エネルギー実験」：エネルギー問題→省エネ→熱効率という導入が特徴で、大きな問題や自分の興味のある話題から、実際にアプローチできる課題への細分化を意識させることを念頭においたカリキュラム。熱ロスの測定・燃料電池の効率などを通じて各種センサーとデータロガーの使用法を学ぶ。

「電気実習」：エジソンの電球発明、真空管、トランジスタ、ICと増幅回路の歴史を提示した上で、電子ブロックを用いて電子回路の基礎を学ぶカリキュラム。実習の最後には、生徒自身が自分で設定した通りの動作する回路を考え、それを実際に組み立てる。

理数系専門演習の充実

1年次「探究基礎」における

SSH研究開発指定以前から、「探究基礎」では生徒が自分で研究テーマを選び、その成果を論文にまとめていました。しかし、SSH研究開発以前は、理数系進路を考えている生徒の中で、科学的なテーマを自ら選んだ生徒の数は半数を下回っていました。

そこで「探究基礎」1年次後期において、理数系生徒の興味・関心、そして探究心をより伸ばすための手段として、五分野（昨年度は七分野）の理数系専門演習・実験カリキュラムを開発し、生徒が自分の興味にあわせて選択できるようにしました。

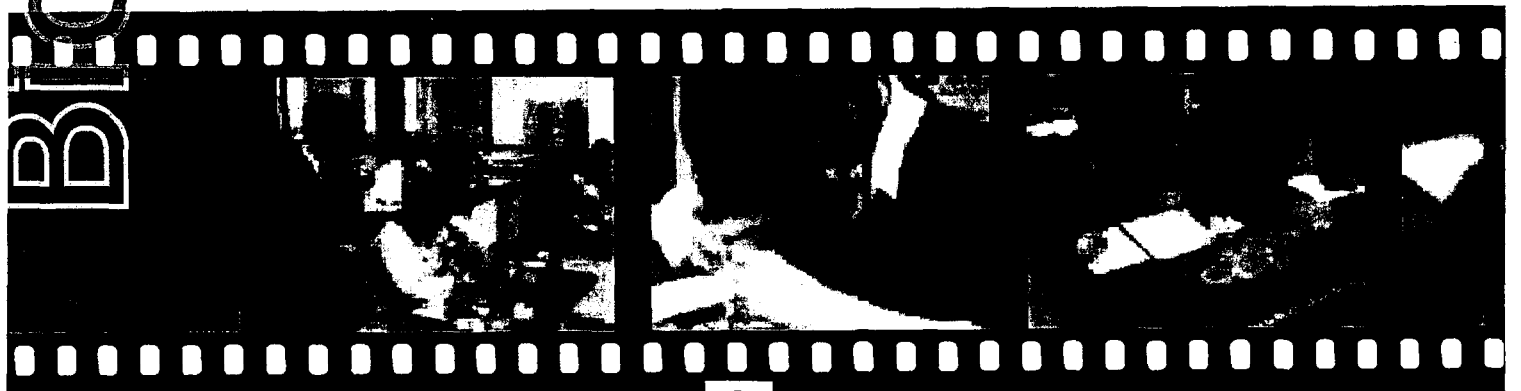
Biology

生物分野では、3つのテーマに分類された実験・実習を行いました。

「平板法による微生物の単離実験」：生徒が自分自身で設定した条件（場所・身体の部位など）で、どのような菌が見つかるか考えながら、実際に平板培地を用いて確認し、培地の作り方や対照実験の計画などのスキルを身に付けるカリキュラム。

「動物に関する実験」：動物の行動の特徴や構造を理解するために、簡易な実験を通して生徒の理解を深めるためのカリキュラム。アフリカツメガエルの解剖、酵素の性質を理解するためのウミホタルの発光実験、ヒトの学習曲線を考えるための鏡像描写を行う。

「植物に関する実験」：さまざまな花の解剖を通して比較考察することで植物の構造や分類の考え方を理解するためのカリキュラム。また今後には遺伝子組換え実験を行う生徒のための基本実験としてタマネギ、ニンジン、ダイコンなどを用いてDNAを抽出をする。





化学分野では、数人のグループで、3つのテーマの実験・実習を行いました。

「土壌のイオン交換作用に関する実験」：「雨水のpHは一年を通じて大きく変動するにも関わらず川の水はほぼ中性である」という観測事実を示し、「その原因は土壌のイオン交換作用による」という仮説を立て、その検証を行うカリキュラム。その過程で液体クロマトグラフィーの使用法も習得する。

「食用植物油を原料としたバイオディーゼル燃料（脂肪酸メチルエステル）の合成」：現在着目されている低公害で持続可能な自動車燃料であるバイオディーゼルの合成を行いながら、有機化学実験の実験技法を習得するカリキュラム。

「中和反応による水酸化鉄沈殿の生成とそれに伴うリン酸の除去」：酸性の河川である「酢川」は岩石を溶かし、その中に含まれているリン酸を多量に溶かし込んでいる。しかし、酢川が流れ込む猪苗代湖は貧栄養湖である……様々な状況証拠と化学の知識から仮説を立て、それを実験で確認するカリキュラム。

効果的な指導法の研究開発

この結果、理数系進路を考えている生徒のテーマ設定は、それ以前のものに比べ科学的なものが圧倒的に多くなりました。これは専門的な演習・実習によって、科学的なものへの興味・関心・探究心が高まったため、と考えられます。

探究心の向上

今後は、今年度開発したカリキュラムが生徒の論理的思考力、実験計画能力、実験技能を本当に伸ばしているかを分析し、より効果的な研究実践カリキュラムを目指し、研究と改良を行っていきます。

地学分野では、2つの実験・実習を行いました。

「スペクトル観測実習」：天体の発する光には、様々な情報が含まれていることを示し、その光を分析すれば、どのような情報が得られ、またその情報から何がわかるのかを、実際に観測・分析を行うことにより習得するカリキュラム。また、この実習を通じて、スペクトルの概念・CCDカメラの原理・天体望遠鏡の使い方・天体画像の処理方法を身に付ける。

「太陽観測実習」：もっとも身近な恒星である太陽の観測を通じ、「光のデータ」からどのようなことがわかるかを体得し、そして太陽が非常にダイナミックな星であることを認識することを目的としたカリキュラム。花山天文台への訪問・昼休みを利用した太陽の観察などを含む。



2年次「探究基礎」における効果的な指導法の研究開発

研究開発の成果

重要な研究課題である「探究する力」測定法の研究開発の結果、抽象的な表現の目標を、より具体的な行動目標に置き換えることができました。それに伴い、生徒に対し明確に課題を示すことができるようになりました。

「探究する力」に関する目標：

探究基礎の目標（一部抜粋、開発中）

3. データの分析・解釈に関する目標

3-1. 実験データを整理し、まとめることができる

3-1-1. データからグラフの作成ができる。

3-2. 関数関係としてデータを捉えることができる

3-2-1. グラフから2つ以上の変数の関係を大雑把（比例、反比例、指数関数的、周期的）に推測できる

3-2-2. 関数関係の傾向から、具体的な関数形（近似式）を見出すことができる

論文の形式に関する目標：

堀川高校版 論文の書き方（一部抜粋）



論文の内容に関する目標：

理系論文の構成および留意点（一部抜粋）

要約(Abstract)

何の為に何をし、どのような結論が得られたかをわかりやすくまとめる。

序論(Introduction)

具体的な問題提起や仮説提示をする。

現在認識されている問題や、設定された課題を明らかにする。

その上で、何故この実験・観測を行ったかを明確にする。

実験・観測によって何をどこまで明らかにするかを示す。

過去の関連研究と、それらと自分の研究の関係について簡単に触れる。

手法 (Methods)

背景となる理論の解説をする。

誰もが再現できる形で手順を示す。

概念図などを用いて実験機器などを解りやすく示す。

他人の手法を模倣する場合に、その文献を引用する。

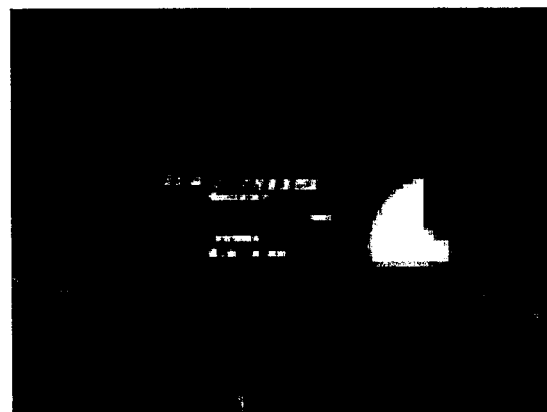
計算方法などの解説をする。

結果 (Results)

得られた実験・観測データを、グラフや表などにし、見やすく示す。

考察の対象となるデータを強調する。

客観的な事実のみを記す。



研究の質に対する外部評価

SSH研究開発で研究・改良された「探究基礎」を通じて培った探究能力に対する外部評価として、外部コンテストに応募しました。



ボーダフォン・モバイル・エコスクール2年生共同研究が応募、グランプリを受賞
松下瞬、藤田英里香、今井貴彦、岩崎哲也、植田準子、木村優介
多点観測によるヒートアイランド現象と雲の姿

第1回 ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ
3件が1次審査を通過
井上拓也 「酸塩基の逆滴定」
岩崎哲也 「ツバメは巣を作る場所を選ぶのか」
笠嶋慶純 「分子の『ゆらぎ』を見る」

第47回 日本学生科学賞
6件が読売賞を受賞
植田準子 「宇宙は膨張しているのか」
木村優介 「簡易吸光度計を用いたリン酸の測定」
谷垂由美 「ニュージーランドの水の分析」
林 映里 「琵琶湖における外来魚問題」
藤田英里香 「京都のヒートアイランド現象を調べる」
横井陽馬 「圧力と温度の関係について」

第8回京都サイエンスコンテスト
5件が入賞、学校賞「優秀校」
京都市立高等学校理化研究会会長賞
谷垂由美 「ニュージーランドの水の分析」
京都市立高等学校生物教育研究会会長賞
岩崎哲也 「ツバメは巣を作る場所を選ぶのか」
京都市青少年科学センター化学賞
井上拓也 「酸塩基の逆滴定」
佳作
橋 鮎郎、濱中 僚 「風洞実験機の製作」
赤水希衣 「球状星団の観測から銀河系の誕生の時期を探る」

まとめ

今年度は、「専門的実験・演習により生徒の探究心は高まる」という仮説を、生徒の設定した課題のジャンルに注目することにより、肯定的に立証できました。より正確・精密に教育活動評価を行うために「探究する力」測定法の開発・検証に一層力を入れていきます。また、探究基礎における研究開発の成果である「探究する力についての具体的な目標」は今年度、本校普通科における「総合的な学習の時間」において利用されました。しかし、新たに開講された科目だったため、前年度との教育効果の比較ができませんでした。こういった場合も事前・事後調査で生徒の到達度がどのように変化したかを推定することのできる測定法が開発できれば、教育活動の評価にとって大きな助けとなるでしょう。

またSSH研究開発を通じて、教育活動の効果をより客観的に検証していくことの重要性が、改めて確認されたことは、本校にとって大変に有益であると考えます。

来年度の目標

「探究する力」測定法の研究開発を継続して行う
測定法の妥当性について外部評価を受ける
測定法を用い、より客観的な内部評価を行う
「教育目標を具体化し、行動・数値目標に置き換え、教育活動に客観的評価を与える」という手法を学校全体で活用していく

資料3

杏林大学医学部附属病院看護部長

福井トシ子先生

看護基礎教育のあり方に関する 懇談会

急性期医療等の観点

助産師の立場から

平成20年3月24日
杏林大学医学部付属病院
福井トシ子

問題意識

- 分娩の集約化は、一過性のものなのか？
- どのような状態になったら、この集約化は解消されるのか・解消されないのか・解消しないのか。
- 20年後もこれは続くのか。
- いつまでの期間に何を準備して、今おかれている妊産婦の状況をどのようにしようとするのか。
- あるべき姿に向かって、助産師の知識・技術はどのように変化するのか・させるのか。
- あるべき姿に向かって助産師はどのような教育を受けるべきなのか。

妊産婦ケアのあるべき姿

- すべての妊産褥婦に助産師のケアを。
- 妊娠・分娩・産褥期は家族から離れることのない支援がなされることの社会のコンセンサスを。

20年後はこうなっている？

- 産婦人科の人数は増加が見込めない？
- 自律して助産ケアを提供できる助産師の増員が必要

- 高齢化が進み、若年層が少なくなる
- 分娩時年齢は、上昇する・・・未妊
- 少子化は止まらない？
- 生活が伝承されない
- 助産師も生活体験は希薄

- 教育の格差が広がる
- 生活基盤が揺らいでいる

- 多様なニーズが益々多様になる
- メディエーターの役割が必要になる

人間的なマタニティケア

Lancet 354;9187:1391-1392, 1999

- 女性とケア提供者双方が満たされエンパワーされる。
- 自分のケアへの積極的な参加と意思決定を進める。
- 医師と医師でないものが、調和をもって協働することによって提供される。
- 証拠に基づかれたケアと技術が提供される。
- コミュニティのプライマリーケアを優先し、分散化された人の組織や施設がバックアップする。
- 経済効率分析がともなっている。



目指すべきマタニティケア

出産環境の変化

研修医制度の変化と地域病院からの医師引き上げ

産科医の集約化

産科訴訟の増加・労働環境の厳しさによる産科医離れ

医療の安全のための医師の複数配置の条件

助産師の活用が政策の中に明示されてこなかった？

助産師の教育の質、実践力の問題が浮き彫りになった

地域医療の変化

地域のお産の場が、医師不在のためになくなる

産科医療へのアクセスが悪くなる

家族から離れたところでの出産を余儀なくされる

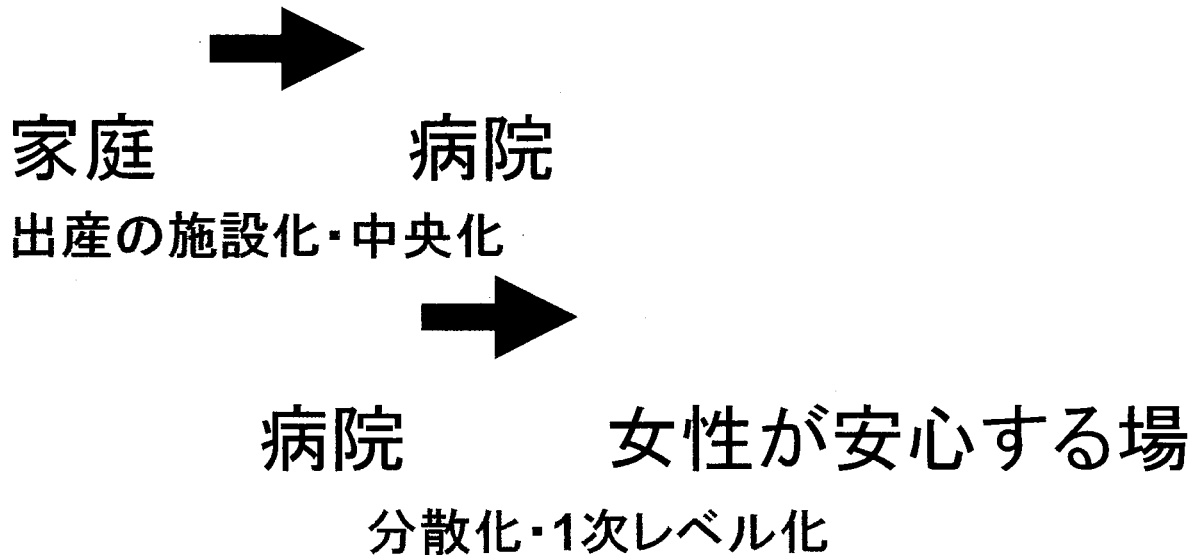
妊産婦の不安

「産科難民」 近くに妊婦健診や出産の場がない

お産が集中することによるケアの質の低下

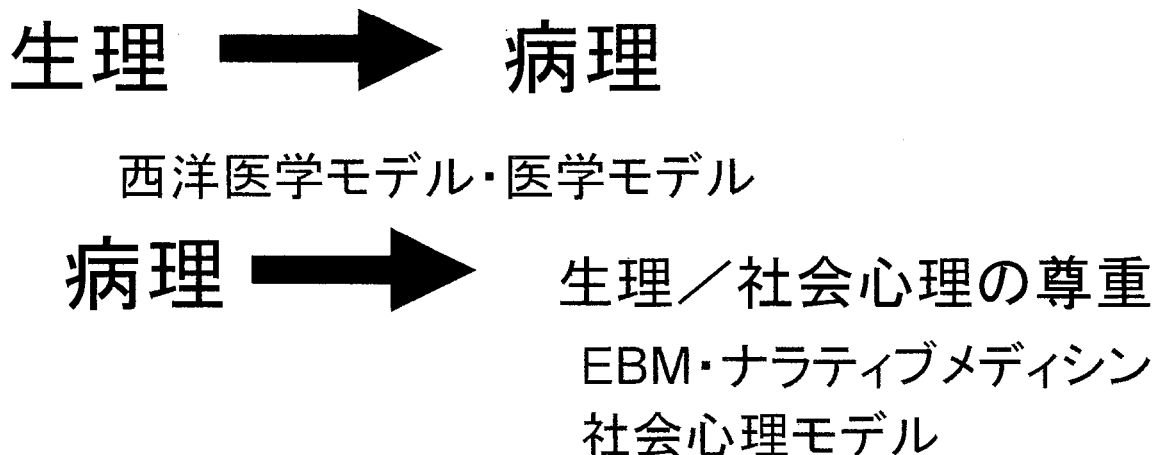
世界的な出産の変化は？

●場所の変化



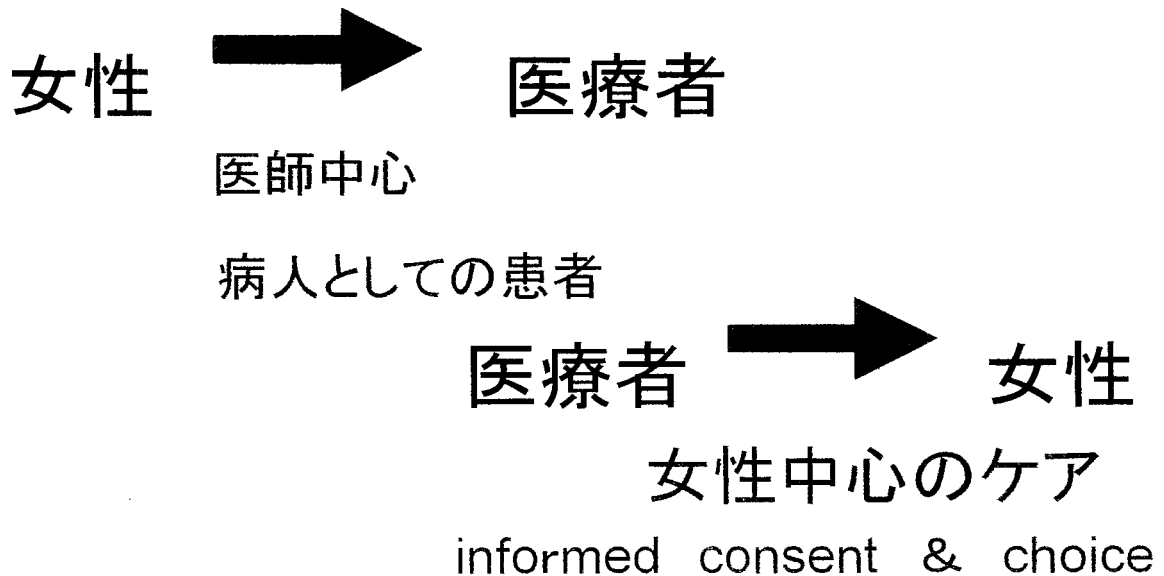
世界的な出産の変化は？

●お産の考え方の変化



世界的な出産の変化は？

●お産の主人公の変化



マタニティケア政策

- 医師の不足が与える影響からの脱却
- 母子中心のマタニティケア政策
少ない医師と多くの助産師が安心して安全で満足できるケアをする体制づくり
↑
そのために求められる助産師の能力

出生数と助産師数

- 昭和25年 2337,507出生
- 昭和30年 1730,692出生
55,356助産師
助産師一人当たり 31.3人
- 平成14年 1153,855出生
24,340助産師
助産師一人当たり 47.4人
(31,3人の新生児には、36,864人の助産師)

女性たちも応援

「身近な地域で
安心して産める場所がほしい！」

請願内容「身近な地域で安心して産める場所がほしい！」

- 身近なお産場所をふやすために、産科医・助産師養成数を増やすこと。
- 正常な妊娠・出産・育児ケアを担える助産師の力を強化し活用すること。
- 院内助産所・バースセンターを開設すること。
- ローリスク妊婦のお産場所の選択肢を確保すること。
- 助産所の嘱託医、連携医療機関を行政が責任をもって確保すること。地域の中核病院や公的医療機関へ義務づけること。

現在の助産師によるケア

- 妊娠期ケア
- 出産期ケア
- 産後ケア
- 母乳育児ケア
- 育児期ケア
- 家族計画ケア
- 思春期ケア 性教育など
- 地域での活動

例) 分娩様式

分娩様式	平成19年
経膣分娩	529件 (58.6%)
帝王切開	373件 (41.4%)
合計	902件

例) 経膣分娩におけるローリスク・ハイリスク フロアごとの分娩数

分娩様式	平成19年
MFICU	273件 (51.6%)
LDR	254件 (48.0%)
その他 (自宅など)	2件 (0.4%)

例) 帝王切開分娩における計画・緊急ごとの 分娩件数

帝王切開分娩の計画の有無	平成19年
計画	209件(56.0%)
緊急	164件(44.0%)
帝王切開総数	373件

20年後に求められる助産師の能力

- 正常分娩をひき受ける主体的で、自律的な力・・・助産師主導の妊娠・分娩・産褥ケアが実践できる能力
- ハイリスク分娩を医師と協働して助産ケアを提供する能力
- 新生児・母体の緊急時、急変時に対応できる能力

人間的なマタニティケアを 実践する

- 女性とケア提供者双方が満たされエンパワーされる。
→女性とともに助産師自らが成長
- 女性自身のケアへの積極的な参加と意思決定を進める。
→意思決定支援／メディエーターの役割
- 医師と医師でないものが、調和をもって協働することによって提供される。→インタープロフェッショナル教育を受けた助産師の自律的行動
- 証拠に基づかれたケアと技術の提供がされる。
→疾患・病態を含めた助産師教育の強化
- コミュニティのプライマリーケアを優先し、分散化された人の組織や施設がバックアップする。→仕組み作り
- 経済効率分析がともなっている。
→助産師によるセルフケア促進

まとめ

- 妊産婦のケアのあるべき姿について社会との合意を得る。リスクコミュニケーション
- 現行の保助看法の限界を確認する。助産師法の可能性について論じる。
- 多様な背景をもつ未妊・妊産婦へのケアを行うことができるために必要な教育期間を論じる。
- 正常分娩はもとより、ハイリスク妊産婦のケアを行うために必要な医学・助産学教育とは何かを再考する。
- 新生児・妊産婦の緊急時・急変時に対応できる能力を習得できる教育を行う。
- 多様なニーズにこたえるためのメディエーターの役割が担える教育の必要性について検討する。